

# 中にすむお狸さん 悪さはいかんどな

松山城の堀端で「八股榎（やつまたえのき）」として親しまれ、「切るとお狸（たぬき）さんのたたりがある」と言い伝えられてきたエノキの巨木の枝が、隣接する歩道の通行に支障を来し、一部が剪定（せんてい）されることになった。信者らは作業当日の8月1日、「剪定奉告祭」を開き、「お狸さん」に作業の無事を祈る。

松山市役所前の堀の南東角にあるエノキは、江戸時代に神通方

## 松山・堀端の神木「八股榎」—— 無事祈りつつ あす剪定



枝が垂れ下がり、剪定が決まった「八股榎」。現在は棒で枝を支えて応急処置している—30日正午ごろ、松山市堀之内

を持つ「お狸」がすんでいたという伝承があり、隣接のほこら「八股榎大明神」の神木としてまつられている。

国土交通省松山河川国道事務所によると、今月26日に行人から

（87）＝同市安城寺町＝の掃除を行っているという田中喜子さん

1957年からほこらを呼んで木にお伺いを立てたところ、エノキからの返事は「切ってもよろしい」だったという。

田中さんは「枝を切るのかわいそうだが、さっぱりしたらあと何十年でも市民に親しんでもらえますから」といたわるように木を見上げていた。

（清原浩吉）

先代の木は戦前の1934年、路面電車複線に垂れ下がった枝が邪魔になり、指摘が化に伴い移転され枯れあり、ほこらの管理者だが、現在は別のエノキがまつられ、青々と茂って四方に枝を伸ばし、市民の信仰を集めている。

1957年からほこらと協議し剪定を決めた。作業までは仮設の支柱を立てて枝を持ち上げていた。

1957年からほこらにあっては「抱えどころ」が今回、行者を呼んで木にお伺いを立てたところ、エノキの移転のとき、枝を切った男性が亡くなったが、現在は高さ十数メートルに成長し、今月上旬には隣接のほこらに移転させた。「前のエノキの移転のとき、枝を切った男性が亡くなったが、現在は高さ十数メートルに成長し、今月上旬には隣接のほこらに移転させた。」